

大学における道德教育  
——麗澤大学の取り組み——

川久保剛・江島顕一（麗澤大学）

はじめに——本報告の目的

本発表は、麗澤大学における道德教育の事例報告を通して、大学における道德教育の現状と課題の一端を明示することを目的とする。

麗澤大学（以下、本学とす）は、授業と課外活動の両面にわたって道德教育を推進している。本報告では、このうち、授業面に特化して事例報告を行う。

1. 「道德科学 A・B」の概要

本学では、全学部の1年次（前期・後期）の必修科目として、「道德科学 A・B」と称する科目を開設している。クラスサイズは、40名前後で、計19のクラスが、発表者2名をはじめとする12名の教員によって担われている。

その教育目標は、(1)「麗澤」の歴史・現在・将来について学び、考える、(2)建学理念「知徳一体」について学び、考える、(3)建学理念の学問的基盤である「道德科学」について学び、考える、(4)「倫理・道德」について、理論的、歴史的に学び、考える、の四点に置かれている。「道德科学 A・B」は、本学のアイデンティティを体現する授業ということができる。

2. テキスト『大学生のための道德教科書』の概要

(1) 編纂の方針と特色

「道德科学」の授業では、共通テキストとして、道德科学教育センター監修『大学生のための道德教科書』理論編、実践編（麗澤大学出版会、2009年、2011年）を使用している。

当テキストの編纂方針は、先述した「道德科学 A・B」の4つの教育目標に基づいている。当テキストの特色は、①道德を現代社会の具体的な問題と結びつけて捉える、②道德に関わる事柄をキャンパスライフと結びつけて考える、③学生として（あるいは社会人として）実践に繋がるようなロール・モデルの提示（卒業生、在校生の事例を紹介）、④ナラティブ（物語）を活用などが挙げられるが、その最大の特色は、⑤教員と学生とのコラボレーションの産物という点にある。

(2) 内容構成

①理論編（君はどう生きるか？）

理論編の内容構成は、第一章では、麗澤大学の創立者である廣池千九郎が研究し、提唱した「道德科学（モラロジー）」とはどのような学問体系なのかを概説し、第二章では、道德を身近な問題から考え、そこで何が問われているのかを考察し、第三章では、それらの道德の問題に、「道德科学（モラロジー）」はどのように応答するのかを試み、第四章では、執筆者の専門分野から道德に関するテーマについて論究している。

②実践編（君はどう考え、どう行動するか？）

実践編の内容構成は、理論編を踏まえ、キャンパスライフの中で実践できる

道徳は何かを考えられるもの、「教える」教科書ではなく、「学べる」教科書であること、道徳実行のロール・モデルを示すものとなっている。

### (3) 意義と問題点

#### ①意義

共通テキストの編纂と活用には、次のような意義が認められる。まずは、学生の関心の所在や傾向の把握である。次に、授業内容の共通化、質の保証が挙げられる。また、FD活動の活性化、教員スタッフ間の議論の活性化に結びついている点も指摘できよう。

#### ②問題点

まず、執筆にあたった教員の専門分野が多岐にわたっていることにより、問題を捉える視点・方法に一貫性を確保することが難しかったといえる。次に、学生の要望に答え、現代的なトピックを多く取り入れたが、社会の変化が速いため、すぐに新鮮味がなくなってしまうという問題がある。それから、創立者の提唱する「道徳科学」を相対的・批判的に捉える視点が希薄である点も問題といえよう。

### 3、大学における道徳教育の課題——本学の事例を通して

「道徳科学 A・B」の授業運営においては、定期的に行われる担当者会議にていくつかの問題点が報告されてきた。

まずは、成績評価の仕方についてである。本学は、GPA 制度を導入しており、「道徳科学 A・B」もその方式によって評価がなされる。これに対しては、担当教員からの疑義が繰り返されているのが現状である。

それから、クラスサイズについては、現在40人前後が1クラスとなっており、ディスカッションやグループワークには適さないといったことも挙がっている。

さらにこれに関連して、担当教員を恒常的に確保することも困難である。「道徳」に関連する学問領域をカバーできる教員の確保は容易ではない。

また、初等教育から前期中等教育の実践や、一部で試みられている後期中等教育での実践を踏まえ、高等教育における道徳教育を構想し、有機的な連関を図ることも課題であると考えている。

#### おわりに——今後の研究課題

管見の限りでは、本学以外のわが国の大学で全学的に道徳教育に取り組んでいる事例は見聞しないが、正確な現状調査の必要性を感じている。そのうえで、他大学との交流や共同研究の可能性を模索していきたい。この点、日本とは異なり道徳教育が活発な海外の大学についても同様である。さらに、そもそも大学教育に相応しい道徳教育とはいかなるものかという論点も検討課題となろう。

#### 参考文献

- ・「大学が道徳を重視」（『山陽新聞』、『静岡新聞』など、2012年4月19,20日）
- ・岩佐信道「麗澤大学における大学生を対象とする道徳教育の実際とその効果に関する一考察」（『日本道徳教育学会第75回大会発表要旨集録』、2010年）
- ・行安茂・廣川正昭編『戦後道徳教育を築いた人々と21世紀の課題』教育出版、2012年